

武道・伝統文化

——特色ある日本事情授業での留学生の声——

村田 明

キーワード：茶道 そば打ち 琴 華道

日本の大学で研究・学習活動を行うために海外から来ている人たちを研究留学生とすることにして、その中で学生の身分の者を単に留学生ということにする。留学生は、どのような学生資格であるかによって、交換留学生、研究生留学生、大学院留学生、学部留学生のように区分される。さらに、海外の大学で研究・学習活動を行う日本人学生を日本人留学生ということにする。

多くの大学で、留学生を対象にした一般教育科目「日本語・日本事情」の授業が行われている。筆者は留学生教育にかかわるようになった時から、日本事情科目の授業を行ってきた。これは、留学生への日本紹介の授業であるといえると思うが、本稿では、現在信州大学で実施されている日本事情科目の大きな特色である「武道・伝統文化」科目の授業内容を、留学生の授業に対する感想をもとに述べる。

「武道・伝統文化」は武道科目と伝統文化科目から構成された授業で、筆者は後者の授業計画・成績処理を行っている。したがって、本稿の題目は科目名を使っているが、その内容は、主に、伝統文化に関することである。意見を寄せてくれた留学生はアルファベットで示し、その内訳を次ページの授業予定表に続けて示した。

1. 武道・伝統文化

「武道・伝統文化」授業は、最初「日本語・日本事情」科目としてではなく、交換留学生、研究生留学生などを対象とした日本語研修プログラムの一環としてはじめられた。したがってその成績が卒業単位に算入されることはなく、学部留学生の参加はほとんどなかった。筆者がコーディネーターとして本授業に関わるようになったのは、本授業が日本事情科目の1つとして認められるようになってからである。次ページに2016年度に実施した「武道・伝統文化」授業予定表を載せた。授業ガイダンスやビデオ授業のための2、3の例外を除いて、すべてが、当該武道・伝統文化の専門家による実習体験授業である。以前は、伝統文化授業に陶芸、着物着付けの授業があったが、指導の先生の引退や、実習場所の不都合さ、その他の理由で取りやめになった。

この授業は留学生の日本への興味関心を深めるのに大いに役立っていると思われる

る。それを示している留学生の実習を体験した感想とともに、伝統文化を日本事情授業として行うことの意味合いを検討していきたい。

2016 年度・前期「武道・伝統文化実習Ⅰ」授業予定

	授業	内容	教室
1		授業の概略説明、自己紹介他	401
2	伝統	日本の伝統文化の概略説明	401
3	武道	武道の概略説明(ビデオ学習)	401
4	武道	柔道(松永先生・大前先生)	武道場
5	伝統	日本文化を話題に	401
6	武道	剣道(廣野他)	第2体育館
*7・8	伝統	茶道の実習(林先生)	百竹亭
9・10	伝統	そば打ち(林先生)	城東公民館
11	武道	空手道(征矢野先生他)	武道場
12	武道	相撲(横山先生・平井先生)	武道場
13	武道	合気道(中島先生他)	武道場
14・15	伝統	琴実習(深澤先生)	401に集合
16	武道	剣道場見学(赤羽先生)	尚道館養心道場

*実習が学外で行われる場合は、実習内容がより豊かになるよう実習時間を2コマ分取ってある。

2016 年度・後期「武道・伝統文化実習Ⅱ」授業予定

	授業	内容	教室
1		授業の概略説明、自己紹介ほか	401
2	伝統	伝統文化と川柳	401
3	武道	武道の概略説明(ビデオ学習)	401
4・5	伝統	茶道実習(林先生)	百竹亭
6	武道	銃剣道(小林先生他)	第2体育館
7	武道	なぎなた(森本先生他)	第2体育館
8	武道	弓道(小林先生他)	弓道場
9	武道	少林寺拳法(久根下先生他)	武道場
10	武道	剣道場見学(赤羽先生)	尚道館養心道場
11・12	伝統	華道(草月流岡村社中)	松本市美術館実習室
13	伝統	日本の建築	401
14	伝統	書道(高山先生)	401
15・16	武道	宮入鍛刀道場訪問(宮入先生)	坂城町

「受講生の声」を寄せてくれた留学生

- | | |
|--------------------|----------------------|
| A: 日本語研修留学生・スリランカ | H: 交換留学生・韓国 |
| B: 交換留学生・中国 | I: 交換留学生・台湾 |
| C: 短期留学プログラム留学生・中国 | J: 交換留学生・韓国 |
| D: 短期留学プログラム留学生・韓国 | K: 交換留学生・韓国 |
| E: 交換留学生・中国 | L: 短期留学プログラム留学生・タイ |
| F: 交換留学生・中国 | M: 交換留学生・ベルギー |
| G: 短期留学プログラム留学生・韓国 | N: 短期留学プログラム留学生・オランダ |

2. 茶道

お茶、コーヒー、紅茶その他いろいろな飲み物を摂取するという人間ならだれにとっても普通である行為、生きていくための単なる水分補給と考えるなら、それは人間だけではなくあらゆる動物の共通の行為であるが、摂取しているものの味や風味を楽しんでいるのは人間だけである。さらには、そこに精神性までも追及しているのが茶道だ。タイの留学生Lが、その思いを寄せてくれた。

L: 今回の茶道はとて素晴らしい経験になりました。これまで日本の茶道に関する何を何度も聞きましたが、自分の目で見たことはありませんでした。今回の授業をきっかけに茶道のことがわかりました。例えば、茶道の歴史、茶道の創始者、お茶をたてることなどいろいろ学びました。一番重要なことは茶道の心ということです。・・・茶道はただお茶を飲むだけでなく、茶室や茶道具を選んだり、鑑賞したり、そしてお菓子や客人を気持ちよくもてなす為の点前作法が融合した総合芸術です。茶道の「一期一会」という精神に、毎回の茶事を客とのただ1回の機会と思って、お互いの気持ちを大切に、日本人の真剣な性格がそこに見られると思います。

Lは床の間の掛け軸に書かれた「一期一会」にも注目している。L以外の、この言葉に対する留学生の感想を紹介する。

B: 全員そろってから、一緒に茶室を拝見しました。正面に「一期一会」と書いてある掛け物がまず目に入りました。私はすごくこの言葉が好きで、まだ日本語がよくできなかった頃には何となくいい言葉だなと思うだけでしたが、意味をさらに深く理解できるようになってからいっそう好きになりました。「茶会を一生に一度の出会いと心得、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えをする」という解釈から「あなたとこうして出会っているこの時間は、二度と巡って来ないたった一度きりのものです。だから、この一瞬を大切に思い、今できる最高のおもてなしをしましょう」という茶道の姿勢が構成されていることにいろいろ考えさせられました。友達と一緒に見たあの時あのところの景色も、家族と一緒に食べた毎回毎回のご飯も、小学校、中学校、大学、人生それぞれの時期に出会った人たちと過ごした日々全部が、二度と巡って来ない大切でかけがえのない一期一会であり、今日、先生が、遠いところから日本にやってきた私達を招いてくれたのもそうなのです。

C: 「一期一会」という字が壁にかけてあります。お茶はおいしいし、環境もいいし、心が落ち着きました。

F: 特に印象的なものは「一期一会」という言葉である。茶会は二度と繰り返されることのない一生に一度の出会いであるという、亭主と客の心構え。人生は茶道のごとし。人と人の付き合いは人生にはただ一度だけのチャンスを思っ、いつでも大切にしましょう。

茶道実習は、松本市の施設である百竹亭で行っている。これは、城の北側の、普段は交通量の多い城をめぐる道路に面して建てられた昔ながらの日本家屋である。門を入ると正面に母屋の玄関があり、その手前に、母屋の縁側に面した庭へ抜ける横道があり、そこを庭石伝いにいくと、竹や何本かの低木に囲まれた待合の腰かけがある。そこに座って亭主の案内を待っていると、すでに、先ほどまでいた所とは異質の世界にいることに気づく。蹲で礼儀を示し、粗相しないように緊張しながら、躡り口から茶室に入る。基本的作法は母屋の座敷で指導していただいているが、この本格的茶室を見学した留学生の声を次に挙げる。

B: 真夏並の暑い日だったが、ドラマに出てくるような古き良き庭園を見ながら美味しいお茶を味わうことをとても楽しみました。竹がたくさん植えられているため、木陰を通ると急に涼しくなりました。一瞬、嵐山の竹の小径に来たかと思いました。素朴で、煩わしい世間とはまるで別世界のようなです。自然と落ち着き、思わずここに長くいたくなりました。こんな素敵な空間で茶道を稽古することができることを羨ましく思うようになりました。

百竹亭の本格的茶室のまるで別世界に来たかのような雰囲気が、留学生に、道具から作法に至るすべてに茶道が持つ日本伝統文化の重みを感じさせるようである。

F: 茶の湯の道具には、日本の伝統工芸の文化が結集していると考えられる。また、茶の湯の道具は、これらの伝統工芸の中でも、きわめて技術的・芸術的水準の高いものが用いられるので、茶の湯の文化は、日本の伝統工芸の技術水準や伝統産業を支え発展させる背景にもなっている。茶の湯独特の雰囲気や境地を、世間ではよく「わび・さびの世界」などと呼ぶことがある。小さな茶室内に閑寂・清澄な世界、あるいは枯淡の境地を感じた。

H: お茶室に入る前から始めてお茶室に入ってお茶を淹れるときまで決められた手順や言葉などがあって思った以上に難しいことだと感じた。でも、そのような礼儀を守ることとか決められたことがあるからこそ茶道が魅力的で伝統が感じられるのではないかと思った。そしてお茶室の入り口が狭くて低いことなど本当に言われなくては気がつかないようなところまでも理由があって昔からそれに気を使っていたと思ったら茶道というのがどんなに繊細で深い意味のある文化なのか伝えられてきた。

初めて茶道の作法に接しての驚きや正座をした時の戸惑いなど、茶道実習が留学生

に引き起こしている様々な思いを見ていると、この伝統文化授業が留学生の異文化体験を十分に豊かなものにしていていると思える。

B: 茶室でまず道具の見方やお礼のしかたなどについて勉強しました。綺麗な模様が描かれた一つ一つの茶碗に惹かれました。茶碗の様子は四季の風物が描かれていて、その茶碗を手を持つだけでその季節にいる気分になります。一番気に入ったのは藤模様の茶碗で、後で実際にお茶を立てるときにラッキーにも回ってきました。「茶碗を近くに持ってくる時は5時で、持ち上げる時は3時に変え、時計回りに2回回して、模様を9時に回してからお茶を飲む・・・」これは茶道において茶碗の持ち方について言うときの独特な言い方らしいです。手本を見てから一人ずつお茶を立てて、友達に飲ませるコーナーも大好きです。茶筌の使い方が下手で、なかなか泡が綺麗に立たない時はちょっと焦っちゃいましたけど、自分が立てたお茶を飲んで、美味しかったと言われたときの喜びは何よりです。

E: 初めに習うことは、茶道具の使い方ではなくて、茶室の歩き方と挨拶の方法だ。茶道教室に入る時、教室の入口で座らなければならない。前の人が入った後、自分も座ったまま教室の中に入った。それにはびっくりした。いろいろなお茶の飲み方を勉強した。とても複雑だと思う。自分は何回体験しても、その礼儀は覚えられないと思う。次に、自分でお茶を作って、飲んだ。お茶を飲みながら、お菓子を食べたことでのんびりできた。もしチャンスがあったら、茶道をもう一度体験したい。

J: 武道・伝統文化実習Ⅱの従業で茶道実習（15年10月27日）と華道（15年12月8日）を習った。茶道実習は百竹亭で指導の先生に詳しく教えていただいた。日本の茶道は古くからお茶を楽しむために、数多くの作法を生み出してきた。それで、日本の茶道には様々な流派がある。日本の茶道はお茶を作って飲む事だけではなく、茶道の時間自体を楽しむことや、人生を生きていく目的や考え方、そして茶道具や茶室に飾る美術品を楽しむなど、広い分野にまたがる総合芸術として発展してきた。この授業で、実際使われている茶道具を触ったり、茶道の体験をしながら、茶道の歴史を感じられたことが非常に楽しかった。さらに、茶道の魅力や茶道で用いられることばの意味などが直接感じられたのではないかと思った。

3. そば打ち

信州を代表する食材の一つ、そば。大阪出身の筆者は、25年前に松本に来て初めて、それまで大阪の食堂で食べていたそばと呼ばれていた食べ物が、実はそば色をしたそば風味の麺類であったのだなど分かった。多彩な日本食経験を持つ留学生もそば打ち実習で多彩な声を挙げてくれた。

C: 日本に来る前は、そばを食べたことあまりないですが、留学してからというもの、信州大学の食堂のそばを食べることが多くなるにつれて、「そば」という食材がどんどん好きになって、興味を持つようになりました。だからこそ、今学期はこの授業を取って本当に良かったなあと思う。

います。・・・出来上がったみんなの力が入ったそばを食べるとき、幸せを感じ、そばに対する愛がつよくなりました。これからは、たくさんそばを食べたいと思っています。(笑) この貴重な経験を一生忘れないように大切にしたいです。

K: 伝統文化の授業では生まれて初めてのそば打ち体験をしました。韓国で和食は結構人気なので、食べたことは沢山あるけど、直接作ったことはないし、作れるとも思えなかったのととても貴重な思い出になりました。今まで、そばは日本の料理だから日本人ならみんな作られると思っていたのですが、日本人でも作れない人がほとんどだと知って驚きました。そば作りは、とても面白かったです。そばの生地の感触が想像したのと違い、固くてびっくりしました。そして、こねた生地をめん棒で薄く押し伸ばすモーションが難しくて、大変でした。猫の手の形をしながら押すのも難しかったです。でも、麺を切るときは先生に上手だと言ってもらい嬉しかったです。味はもちろん先生が作って下さったのが美味しかったです、私のも私なりのこころを入れて作ったので美味しかったです。

D: 公民館に行ってそば打ちのところに入るとみんな衛生のために帽子とマスクをかけている様子が見られました。それを見て私はやはり日本だと思いました。最初のそば打ちを見ながら、韓国の麺と作り方が似ていてあまり難しくないと思いました。でも、実際にしてみると均等に棒で押すことが大変でした。その上、麺を切るのも薄く切らなければおいしくない、頑張りましたが、それも難しかったです。最後に、そばを食べ終わって、先生がそばをゆでた湯をたれに入れてくれて、それを飲んでみると冷たいそばを食べて冷たくなったお腹を温めて、本当においしいと思いました。

そば打ちは、国際交流会館の北 100m ほどのところにある城東公民館の調理室で行われた。蕎麦屋を営む専門家を中心に形成されたそば愛好会のおじさん、おばさんたちが、グループごとに留学生たちを文字通り手取り足、舌、箸とり指導した。

A: 本日の授業でそば打ち体験をしました。今回は 2 回目でしたが、前回はあまりうまく出来なかったから今回は頑張りたいと思っていました。前回は、麺を切ることが一番難しいと思いました。今回のそばは 100%の蕎麦粉ではなく、薄力粉を使った二八でした。そば粉と薄力粉と水をこねるのですが、最初は水が足りなくて伸ばしがうまくいかず、水を足してこね直すという愚行を犯してしまいました。そのためか、切る時に途中で切れてしまい、短いものが多くなってしまいました。しかし、二回目はもう少し水を入れてきれいな形になりました。茹でる方は、解説どおり一人分ずつ茹でてはすぐ食べるようにしたので前回とは違って蕎麦らしい味を楽しむことができました。そば打ちのだんごりは下のようにはしました。

E: 松本に来る前、自分は本当にそばをあまり食べない人です。日本に来てから、特にそばが有名な松本に住んでいるから、日本人または松本の人々のそば愛がしみじみと感じました。お土産の店には信州そばが定番で、グルメ番組も蕎麦屋がよく出てきます。今回の授業でそば打ちを指導していただく先生方もみんな別の仕事を持っていたりして、そば打ちを趣味としてやってこられま

した。より多くの人にそばのいいとこ、そば打ちの楽しみを知ってほしいと、このような活動を企画してくれました。先生方の一途のそば愛に深く感動しました。先生方のようなそば大好きな人がいるからこそ、信州そばが広く知られ、愛されるのではないかと、私は思いました。自分の手で作ったそばからなのか一層おいしく感じました。実際はさほど変わらないかもしれないが、やはり気持ちを込めて、自分の手で粉を練るから麺までできる過程はすごくドキドキで、仕上げるまでずっと心配していました。美味しくなかったらどうする？自分ひとりのそばだけ細くないのなら・・・と。氷水でゆでたそばを切ってから、いよいよ食べはじめました。みんな調理台を囲んで、分かち合っでそばを美味しく食べる風景がいまも記憶に新しいです。そば打ちの授業に参加したおかげで、人生初めての麺作りを完成しました。食べた時の感動も一生忘れないと思います。熱心に指導してくれた先生、助け合うグループのメンバーたち、本当にありがとうございました。

Dの言っている「そばで冷えたおなかに蕎麦湯の温かさがおいしかった」というのも面白い感想である。

4. 琴

琴の実習は、指導の先生のお宅の座敷に琴を斜めに並べて練習するという方法なので、受講生全員に体験してもらうことができない。琴実習が行われる前期の受講生数が後期の受講生数より多いということもあって、まず全受講生をお茶クラスと琴クラスに分ける。同時に練習できる人数は最大で6人なので、琴クラスをさらに3つのグループに分けて、順番に1時間の実習を行う。

E: 最初は琴か茶道かどちらを選ぶのか本当に困りましたが、琴を選んでよかったです。わたしは子供のときにピアノを習ったことがあり、音楽に関することにずっと関心を持っています。今回も、せっかく日本の伝統文化について授業があって、楽しみの極みです。

琴の体験日がようやくきました。琴の教室に入るなり、四つ琴の綺麗さに驚きました。そして、二人の先生もとても優しく、親切に琴の歴史を簡単に紹介してくれて、挨拶の姿も教えてもらいました。次に、本番の授業が始まりました。教室へ行く前に配られた楽譜を見たとき、読めなくて、もし自分ができなくてどうしようと、少し緊張しましたが、先生が丁寧に教えてくれた後、皆はできそうになりました。私に変な弾き方になってしまうときに、先生がわざわざ私のところに来てくれて、正しい姿を教えてくれたり、ありがたかったです。一時間が気づかなかったうちに、あっという間に過ぎました。最初の何も弾けない状況から、最後に「さくら さくら」という一曲を完全にできるようになって、うれしくてならないのです。曲はすばらしいでしたし、琴もすばらしかったです。特に、先生の教え方が上手だと思います！今回の体験を、大切な宝物として頭の中に保存したいと思います。私は帰国しても、日本のすばらしい琴のことを周りの友達に紹介したいと思っています。

N: 琴は本当に面白かった、先生は優しいし説明も簡単でした。琴は難しいと思いました。ちょっと難しいですがきれいな楽器です。この授業は大好きになりました。もっと弾きたかったです。琴授業を受ける前に予備知識がほしいと思いました。授業を受けた今、琴の部活に参加したいと思

っています。

琴を初めて経験して、その音の美しさと日本らしさに感動するようである。それにしても、未経験者がわずか1時間の練習で合奏ができるようになるのには、いつも驚かされる。ほとんどの留学生がまた琴を習いたいと言っているのにも、琴がもつ魅力を感じる。

G: 茶道より琴について習って見たいと思ってどきどきしていました。琴の音が思ったよりとてもきれいかったです。最初は先生の雰囲気少し怖かったですけど本当にやさしく教えてくれました。日本の伝統の音楽も直接演習できることが一番よかったことです。初心者なのに先生が「みんな上手ですね」と褒めてくれて、ありがたかったです。そして皆の練習をした音が集まっていい演奏ができました。実はこれについてFACEBOOKに乗せましたが日本の友達と先生にいい反応をもらいました。機会があったらもう一回してみたいと思っています。

H: 韓国で中学のとき가야금(ガヤグム ga ya geum)という琴と似ている楽器を習ったことがありました。なので、楽にできると思ったのですが、演奏の仕方も音もまったく違って、なんか日本らしい音がしました。韓国の가야금の演奏の仕方は指を曲げて弾きますが、琴は前の弦に進むような感じで演奏するものでした。つい弾いてしまって先生に注意されたので、その点に注意して演奏しようと思いました。琴は日本伝統の楽器なのでド、レ、ミなど西洋の音階でなく琴ならではの音で、日本を感じられました。なんとか「さくらさくら」の演奏ができ、先生からもすごく褒められて良かったです。琴爪を指にはめて演奏するときは痛みを感じなかったのですが、時間が経ち、痛い一と思ったら、琴爪のためでした。でも、痛みはすぐ消えちゃって良かったです。韓国では大学に通いながら楽器を演奏する機会がまったくなかったのですが、ここに来ていっぱいいい経験ができ、嬉しいです。

他グループが実習している間、実習していないグループは、お宅訪問ということで、筆者の家で待機する。百人一首、囲碁、将棋、麻雀、トランプなど、日本の家庭で行われているゲームなどをさせた。

F: 武道・伝統文化実習という授業のおかげで、私はあまり体験できない日本の伝統文化の一つ、琴道を体験できました。みんなは三つのグループに分かれました。私は第二組ですから、第一組が体験している間、私たちは先生のお宅で、ジュースを飲んだり、話したりすることができました。そろそろ第一組が終わるちょっと前に、私たち第二組が琴道の先生のお宅に行きました。先生のお宅に入ると、玄関で若い女性の先生と会いました。先生を見ると、優美な雰囲気が感じられました。さすが伝統的な楽器を演奏している先生だなあと思いました。教室に入ると、もっと私をびっくりさせることができました。本当に私たち留学生を教える先生は、ご年配の方でした。ご年配の方なのですが、化粧もしているし、元気だそうです。私も年をとったら、先生の半分くらいの行動能力を持たら嬉しいです。そのあと、第一組の演奏会が始まりました。本当に素晴らしいかったです。みんなも初めて琴を演奏しているのに、先生と一緒に合奏して、私たちのため

全員が同時に、とても良い演奏会をしてくれました。私たちも第三組の人の前で演奏するかと思って、緊張してしまいました。私は子供のときから、楽器に弱いので、自信が全くありませんでした。でも、二人の先生が優しく教えてくれるし、隣の友だちも頑張っていますから、私はきちんと練習しないわけにはいきません。わからないところを何回も繰り返して、知らないうちに、演奏ができるようになりました。やっと私たちの「演奏会」の時間になりました。第三組に友だちがいて、友だちの前で恥をかきたくない私は、深く呼吸して、みんなと一緒に演奏を始めました。すごく緊張していましたが、たくさん練習をしましたので、私たちのグループもよくできました。第三組のみさんから拍手をもらったときに、成功したなあと思いながら、ほっとしました。

5. 華道

野に咲く花を少しいただいて、花瓶にさして部屋に置く。それだけで、その部屋の雰囲気が大きく変わる。こんな万国共通の趣味嗜好が、華道になるとなぜこうも奥深いものになるのだろうか。留学生はその点について、戸惑いというより、驚きと感嘆の気持ちを抱くようである。

- C: 華道は日本の伝統技術で、独特な意味と概念を形成されて、いろんな流派があります。今回は草月流を拝見しました。まず、先生は華道について専門知識を教えました。これまで華道は簡単だとおもっていました。実際にそんなに厳しい規則を持っていると思わなかった。例えば、真、副、控の長さや位置、自分の好きに置けば多分そんなにきれいではないかもしれません。それは科学的な美学だと思います。

そのあとは実習でした。実際にやるのは思った以上に難しい。枝の自然の形、どうすればその美しさを示せるのかはかなり困難でした。ひたすら規則を守ってもいけません、場合によって臨機応変も重要です。先生が助けてくれて、ようやくいい作品を作ることができました。その花をみて、自分の気持ちもよくなりました。今回学んだ内容はもっとも基本的なのですが、華道の魅力もちよっと感じました。これからも機会があれば華道をもっと勉強したいです。自然の美しさと生活の哲学はその中の奥義です。

- J: 授業の前に日本の生け花は他の生け花とどう違うか考えました。私が今までみてきたのは結婚式とか教会で飾っている西洋の生け花でした。それで、日本の伝統の生け花はどんな形だろうか気になったのです。日本の生け花は伝統意識を持って正式に組織が作られて守っていくような感じでした。いつもそう思っていますが、今回の生け花の授業を通じて、日本は伝統文化をよく守っていると感じています。それに、生け花を教えられる許可証があるのが珍しい。

生け花は実際にしてみると色々な規則がありました。花の長さとか刺す位置とかが意味をもって決まっていました。最初はその形がきれいに見えるかなと思いましたが、完成してみると本当に気に入りました。花を切ることで、長さを目分量で計算して切るのが難しかったです。また、菊を水の中のできるのが慣れていないので、切るごとに大変でした。でも、花を使って何かを作り出すことは本当に面白いことだと思いました。また、三角形をいつも守るという三角の基本が維持されているところに生け花の特徴とそのきれいさが見えると感じました。

E: 今回の授業では「草月流」という流派のいけばなを少し教えて頂いた。草月のいけばなは「線・色・塊」に注目し、疎密によって強弱・濃淡・変化をつける。作品は必ずしも和風ではないが、一部の例外を除き、メインとなる花材の均等間隔配置をしない、作品全体を完全なシンメトリーにしないなど、バランス構成は基本的には日本美術をふまえている。授業では最も基礎的な「真・副・控」を基本とする花型法について学んだ。真となる花と控となる花、計四つの花材を使用して作品を構成した。

以前から日本のドラマや漫画でよく生け花が出て、いつかはやってみたくてずっと思っていたその願いを今期の伝統文化の授業で叶えることができ嬉し。実習の前はただ花や枝などを挿すだけで、かなり簡単だと思っていたが、実際にやってみると花材をどの方向に挿すのか、どうやって挿すのかなど多くの問題ができてとても難しかった。しかし、先生方に隣でずっと見てもらい、自分なりにかなり満足が出来るような作品ができたと思う。

草月流生け花の難しい幾何学計算に理解を示しているのは驚きである。今回の授業は草月流の師範の先生と、そのお弟子さん5人によって指導された。

A: 華道の授業について考えてみるととても貴重なチャンスだったと思います。なぜならば、日本人の中にもなかなか実習できないチャンスで留学生としてそのようなチャンスがもらったからです。先生はとても親切で華道の基本を教えたので早く理解できるようになりました。華道つまり花と枝などを使ってきれいに飾ることは世の中の他の国と比べて日本は一位だと思います。生け花と表現する華道は昔から日本であったことを教えられて仏教と深い関係があると聞きました。スリランカも仏教の影響は強い国なんですが生け花のような文化はありません。ただ仏さまに花を御供えすることだけが習慣です。本日の授業で生け花を習うとき日本の文化は豊かであることを考えました。何でもきれいに美しくして見せる文化だと思います。生け花は物理的な文化だけではなくて心理的な分野も入っていると思います。心を落ち着いてからやる必要があるのではないかと思いました。基本を学んだうえで生け花ができるというわけではありません。芸術的な見方も必要だと思います。私が作った生け花は、先生にもっと美しく見えるように直されました。みると本当にきれいだったので生け花の美しさが少しわかったと思います。生け花の中に隠れている意味があると考えるようになりました。授業の最後に先生が言われた言葉は家に帰ってその日持ち帰った花と枝をまた生け花の形にするとき思い出しました。それは「花はいけたら人になる。」という言葉です。まさに人生の事実を表現しています。

I: 長い間生け花の授業が楽しみでした。先生たちは最初生け花の元を紹介してくれました。それから、組を分けて、体験を始めました。A組とB組の花の種類が違うけれども、綺麗だと思いました。両方の作り方も同じではないです。みんなは先生の話聞きながら生け花をやりました。作る途中で指導の先生たちも学生のそばにいて、手伝ってくれました。授業が終わったら、その花を家に持ち帰って、花瓶に花を挿しました。今部屋で花がインテリアになって、とても綺麗です。毎日その花を見ると、気分も良くなります。

D: 日本では色々な「道」があって、全部体験するにはどれくらいかかるかなあ。日本に来る前は、主婦は華道をやるのは好きだと聞いていたが、見たことはなかった。聞くたびに華道はどのような風になっているかなあと思ったり、花屋で売っている花と大体一緒じゃないかと思ったりしていた。今回は、ようやく謎めいた華道の本物を見た。正直、最初にみた時、花も葉も二本しかなくて、あまりかわいくなかったので、失望した。そんなもので何をできるかと思っていたが、先生の指導に従ってやってみると、すごくいい感じになった。先生に褒められて嬉しかった。華道には様々な流派があって、区別がよく分からないが、要領はきっと一緒だと思う。いつかもっと複雑なやり方をやってみたい。

M: 皆と集まってから、大きいビルに入った。あのビルの上から松本の綺麗な景色が良く見えた。しかし、その為にあそこに入ったわけではなかった。ある部屋の玄関で人々が優しく私達を待っていてくれて、スリッパをくれた。それから、皆が U 字の形をしているテーブルに座ってから、華道の概念を説明してくれた。グループは少し大きすぎた為、二つのグループに分けられ、二つの異流を教えてもらったのだ。最初、私は見ているグループだった。見るだけでも面白くないことはないが、一生懸命注意してみることはできなかった。その後、自分で実習できるようになり、正直にいうと私達の形の方が気に入ったのだ。花も綺麗だと思った。それから、先生の温厚な指導のおかげで、なんとか、できたと思う。実は、私はもう、4年前と2年前、大阪のホストファミリーのところでやらせてもらったが、今度と同じようにうまくはできなかった・・・

今回留学生の声を寄せてもらったのは、平成 27 年度に行った武道・伝統文化に対するものである。実習は、お弟子さんの一人の住居の一室を借りて行った。座学による華道講義は十分な会場であったが、実際に花を生けるには、全員同時にやることはできない。私たちが会場に行った時には、すでにグループ分けがなされていて、それに従って、順番に実習を行った。平成 28 年度の華道実習は、全員が同時に実習を受けられるように、会場を松本市美術館の実習室で行った。

6. 最後に

日本事情という留学生対象の 1 授業に、ここまで手間暇をかけて計画されている授業は、少ない。しかし、留学生の声には日本を知りたい、うわべの日本ではなく、その精神性の深みに踏み入りたいという情熱を感じる。

(信州大学 総合人間科学系 全学教育機構 教授)
2017 年 1 月 4 日受理 2017 年 2 月 1 日採録決定